

令和 8 年度 亀岡市シティプロモーション事業

第一次審査:プロポーザル審査評価シート(審査表)

大項目	中項目	小項目(評価のポイント)	配点
Ⅰ. 戦略の的確さと姿勢 (25 点)	1. 役割の理解	① 支援者としての姿勢 ・決定後の代行ではなく、「決定前の担当者レベルでの最適化」により、手戻りや摩擦を防ぐ支援スタイルが明確か。	5
		② 全体最適の視点 ・個別の事業支援だけでなく、それらをまとめて市全体のブランド価値を高める視点があるか。	5
	2. 戦略の独自性	③ 予算・手法の工夫 ・費用対効果を最大化するため、予算配分にメリハリをつけたり、より良い代替案を提示しているか。	5
		④ 提案の説得力 ・提案された戦略や手法が、「なぜ亀岡市に必要なのか」について、他自治体での実績・事例やデータに基づき論理的に説明されているか。	5
Ⅱ. 具体的な施策の実現性 (30 点)	1. 地域産品支援	⑤ 素材提供の工夫 ・担当課が使いやすいよう、魅力を引き出した動画や画像を制作する手順が明確か。	7
		⑥ 選定の根拠及び発信力 ・インフルエンサー等を選ぶ際、データに基づいた明確な基準を持っているか。 ・連動したキャンペーン計画等があるか。	6

	2. イベント連携	⑦全国都市緑化フェアに関する独自の広報戦略 ・亀岡会場ならではの魅力を補完・強調する独自の考え方があるか。 ・複雑な情報を整理し、来場者が迷わずに楽しめるような情報発信設計ができているか。	5
		⑧ 観光コンテンツとの連携 ・亀岡市の観光入込客数、観光消費額など定量的な数値の他、現状の課題、コンテンツの優位性を把握し、的確な情報発信設計ができているか。	5
	3. 市内情報伝達	⑨ 情報を届ける工夫 ・若年層等に対し、スマートフォン等を使って確実に情報を届ける計画があるか。	5
		⑩ ターゲットへの到達 ・重要情報を必要な人へピンポイントに届ける仕組みや実績があるか。	5
Ⅲ. 組織変革とデジタル活用 (25 点)	1. ブランド	⑬ 合意形成の進め方 ・各課を調整し、「ブランド体系図」にまとめる進め方が現実的か。 ・ブランド体系図を周知し、それを組織に実装していく具体的な提案があるか。	7
	2. 生成 AI	⑭ 将来の活用計画 ・高機能な生成 AI 導入を見据え、現行の業務フローを劇的に効率化するための計画が提案されているか。 ・今後の生成 AI の進化を把握し、さらなる業務改善につなげていけるか。 ・広報目線での生成 AI の実装に十分な知見と実績があるか。	10
	3. 業務の内製化	⑮ 職員のみで行う計画 ・3 年間で簡易業務を職員(複数名)だ	5

		けで完結できるようにする教育計画が具体的か。	
		⑩ 高度業務の管理・運用 ・プロジェクト管理ツールやチャットツールを活用し、高度な案件の進行管理を確実にできる体制があるか。	5
IV. 会社の信頼性と体制 (20 点)	1. 調査・検証	⑮ データの信頼性 ・統計的に信頼できるデータ収集や分析を重視した提案であるか。 ・事業に関する適切な調査を計画、実行し、結果をもとに改善につなげる仕組みがあるか。	10
	2. 統括責任者	⑯ 調整・連携能力 ・自治体の業務に精通しており、他自治体などで同様の実績があるか。 ・担当課や他部署と円滑に連携し、信頼関係を築き、業務を進めることができるか。	10
合計			100

プレゼンテーション審査(二次審査)実施要領

1. 審査の目的

本審査は、提出された企画提案書(一次審査)の内容に基づき、事業者の「戦略的に考える力」「具体的に表現する力」および「プロジェクトを進める力」をより深く評価するために実施する。

特に、本事業の鍵となる「簡易業務の内製化(教育力)」と「高度業務の進行管理(リーダー力)」について、机上の空論ではなく、実際にやり遂げられるかを見極めることを主眼とする。

2. 実施概要

実施:令和8年3月19日(木)にオンライン会議室システムを利用して実施。

※詳細については一次通過者に通知

出席者:統括責任者(リーダー)を含む5名以内とし、実際に業務を担当する予定の者が行うこと。

3. プレゼンテーションにおける重点要求事項

(1)「不確定要素」への対応方法

具体的な事業が決まっていない中で、どのように市職員から情報を引き出し、要件を固め、各種キャンペーン、制作物に落とし込むか、その「合意形成と制作の手順」を具体例を交えて説明すること。

(2)「組織の知識化(ノウハウ継承)」の具体策

3年後の内製化に向け、広報プロモーション課職員やプロモーション業務を担う複数名を対象とし、人事異動で担当者が入れ替わっても簡易業務の品質を落とさないための具体的な仕組み(マニュアル化、データ共有、生成AIの活用、研修方法等)について説明すること。

(3)具体的スキルの実演(デモンストレーション)

生成AIの活用や制作物の作成能力について、実演や具体的な見本(ポートフォリオ)を用いて、その「質の高さとスピード感」を証明すること。

令和 8 年度 亀岡市シティプロモーション事業

プロポーザル二次審査評価シート(審査表)

提案内容の良し悪しに加え、正解のない状況下でもプロジェクトを成功に導くことができる「パートナーとしての信頼性」と「統括責任者(リーダー)の対応力」を重点的に評価する。

大項目	中項目	小項目(詳細評価ポイント)	配点
Ⅰ. 提案の説得力と柔軟性 (20 点)	1. 話の一貫性	① 納得感 ・課題から解決策への流れに無理がなく、単なる説明ではなく「物語」として共感できるか。	5
		② 独自提案の価値 ・市が想定していなかった視点の提案があり、それが課題解決の近道であると思わせる説得力があるか。	5
	2. 思考の柔軟性 (対応力)	③ 状況への適応力 ・固定観念に縛られず、予算や状況の変化に応じて柔軟に作戦を組み替えられる「頭の柔らかさ」が感じられるか。	10
Ⅱ. 実行力と専門スキル (30 点)	1. 進行管理 (段取り)	④ まとめる力 ・高度なキャンペーンを想定した際、リーダーとしてどのようにスケジュールや品質を管理するか、その手腕が信頼できるか。	10
	2. 技術・表現力	⑤ 「行きたい」と思わせる力 ・見本として提示された動画や画像のデザイン質が高く、理屈抜きで「欲しい・行きたい」と思わせる魅力があるか。	10
		⑥ 使いやすさへの配慮 ・制作物が他の用途でも使いやすいか、また職員が使うツールやテンプレートが初	10

		心者にも扱いやすいものか。	
Ⅲ. パートナ ーとしての資 質 (30 点)	1. リーダーの資質	⑦ リーダーの主体性 ・統括責任者(リーダー)自身がメインで自 分の言葉で熱意を持って語っているか。	10
		⑧ コミュニケーション力 ・こちらの意図やニュアンスを正確に汲み 取り、専門用語を使わずに分かりやすく対 話ができるか。	10
	2. 質疑応答	⑨ その場での解決力 ・想定外の質問や厳しい指摘に対し、持ち 帰らずその場で論理的に回答し、解決策 を提示できるか。	10
Ⅳ. 組織を変 える熱意 (20 点)	1. 業務の内製化 (職員での実施)	⑩ 教育の再現性 ・担当者が代わっても品質を維持できる、 「誰でもできる化(マニュアル・仕組み化)」 の提案があるか。	10
		⑪ 役割分担の適切さ ・「職員がやるべき業務(簡易)」と「プロに 任せる業務(高度)」の線引きが、コストと 品質のバランスにおいて最適か。	10
合計			100